

平成 21 年度
波介川河口導流事業埋蔵文化財発掘調査
現地説明会資料

かみ の むら
上ノ村遺跡



記者発表 2009年8月27日(木)午前10時30分～11時30分
現地説明会 2009年8月29日(土)午前10時30分～12時

(財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター
高知県教育委員会
国土交通省四国地方整備局高知河川国道事務所

波介川河口導流事業について

波介川は仁淀川の支流にあたりますが、上流に行くほど地盤の低い低奥型の地形であるため、大雨の際は幾度となく地域に洪水被害をもたらしてきました。特に昭和50年8月の台風5号による水害は流域に深刻な被害をもたらしました。

このような状況を受け、国土交通省では現在の合流点を仁淀川河口へ付け替え、洪水時において仁淀川からの逆流による影響を除き、波介川の洪水を安全に流下させ、内水被害を大幅に軽減させることを目的に「波介川河口導流事業」を行うことになりました。

I 調査の概要

1. 発掘調査名

平成21年度 波介川河口導流事業埋蔵文化財発掘調査 上ノ村遺跡発掘調査

2. 発掘調査の目的

波介川河口導流事業計画区域内における事前の試掘確認調査を実施し、計画地内に所在する埋蔵文化財の中で、工事により影響を受ける部分について記録保存のための発掘調査を行うとともに、平成17年度以降の発掘調査出土遺物等の整理作業及び報告書作成を行い、埋蔵文化財の保護を図ることを目的とする。

3. 事業主体

国土交通省四国地方整備局高知河川国道事務所

4. 調査主体・実施機関

調査主体 高知県教育委員会

調査実施機関 財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター

5. 調査場所

高知県土佐市新居上ノ村(図2参照)

6. 調査協力

国土交通省四国地方整備局高知河川国道事務所

土佐市教育委員会

7. 調査地点・面積・各調査区調査時期(予定)

調査区名	調査面積㎡(延べ)	調査期間
2 地 点	6,000㎡	2009年4月～9月
5 地 点	3,500㎡	2009年4月～8月

波介河口導流事業・埋蔵文化財調査地点位置図



図1 これまで調査を行った場所と本年度の調査区

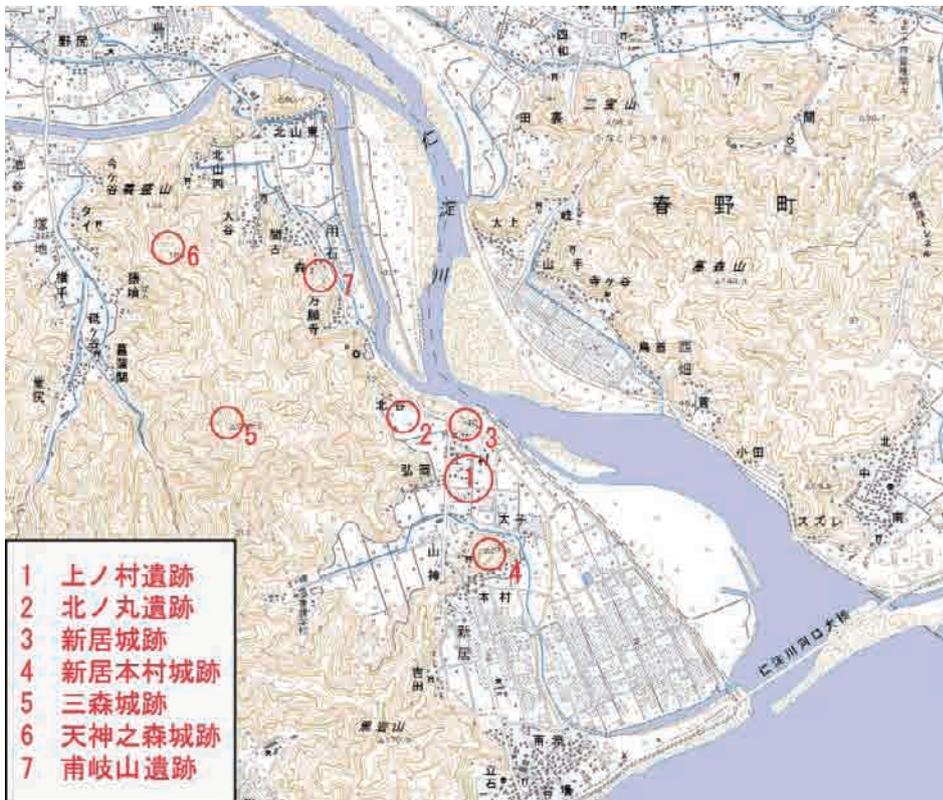


図2 周辺の遺跡

Ⅱ これまでの調査

上ノ村地区では平成16年度以降波介川河口導流事業に伴う発掘調査を実施しており、本年度で6年目を迎えています。これまでに北ノ丸遺跡、上ノ村遺跡の調査を行いました。(図1参照)

●平成16年度 北ノ丸遺跡(図1 調査区位置図4・5地点)

古墳時代(6世紀後半)の木器が多く出土しました。

低湿地に立地しており木製品が良好な状態で出土しました。田下駄や建築材ともに貴人が用いたと考えられる衣笠の一部や槽作りの琴などが出土しています。このような希少な遺物が出土することは、当地域が古墳時代から重要な地域であったことを示しています。

●平成17年度 上ノ村遺跡(図1 調査区位置図1～3地点)

古代(8世紀～12世紀)、中世(13世紀～15世紀)の遺跡を確認しました。

中国産の陶磁器や京都、大阪などの近畿や東海地方など高知県以外の地域で作られた陶磁器が多く出土しています。また、役所などで使われた緑釉陶器、黒色土器なども出土しています。河口に近く、仁淀川、波介川の合流地点である立地からみると水運に関わる重要な場所であったと考えられます。

●平成18年度 上ノ村遺跡(図1 調査区位置図青字部分)

本遺跡ではじめて弥生時代の遺構・遺物が確認できました。

古代(8世紀～12世紀)、中世(13世紀～15世紀)の遺構・遺物を引き続き確認しました。新居城跡のすぐ下で堀の可能性のあるV字状の溝を確認しました。また15世紀以降集落が川に近い南東側に広がっていたことが判りました。県外産の遺物が多く出土し古代以来、物流の拠点であった事を示しています。

●平成19年度 上ノ村遺跡(図1 調査区位置図緑字部分)

新居城跡南側の第1地点と東側の第3地点、および新居城跡の調査を行いました。

上ノ村地区の歴史が縄文時代まで遡る事が明らかとなりました。これまでの調査と同様に古代(8世紀～12世紀)、中世(13世紀～15世紀)の遺構・遺物を確認し遺跡の広がりや内容を補完する事ができ、ますます川津の性格を持った集落が存在していた可能性が高くなりました。新居城跡は後世に壊されている部分が多く遺構は確認できませんでした。また江戸時代の規模の大きな井戸跡や、太平洋戦争時の塹壕跡を確認しました。

●平成20年度 上ノ村遺跡(図1 調査区位置図赤部分)

城跡南側の1地点と、南側にやや離れた2地点を調査しました。

第1地点では弥生時代から中世(13世紀～15世紀)までの遺構・遺物を確認しました。特に平成18年度の調査で確認していた弥生時代中期末の遺構・遺物を本格的に調査し、鉄片が特に多く出土したことは注目されます。

第2地点では後述の古い堤防の内部で、石積みの堤防遺構を発見しました。さらにこの石積み堤防遺構の下から、古い時期の仁淀川岸を護るために石を積んだ護岸遺構を発見しました。この位置に、堤防を4回以上造っていたことがわかり、水害から地域を守ろうとした先人の努力を知ることができます。

Ⅲ 本年度の調査

2 地点

1. 石積み堤防遺構

当地点には、今では用を終えた古い堤防があり、地元で「中堤防」と呼ばれていました。昨年度、内部調査のため断ち割りを行うと中から石積みの堤防が出土し、本年度は、その内部も調査しました。

○本年度の主な成果

- 1) 内部に、さらに古い石積み堤防の跡(根石)が残っていた。これを「1次石堤」、昨年度みつけた上記の堤防を「2次石堤」と仮称する。
- 2) 石積みの堤防が始まる上流端部分は、凹地に堤体内部と同様の川原石を厚く敷き詰めた**基礎**を造り、その上に堤防本体を築いていた。この基礎構造には、「**木枠**」も使用して堅牢にしている。
- 3) 2次石堤内部から、明治～昭和初期とみられる磁器の破片が出土。石の積み方等からみた年代観とも一致する。

また、2次石堤の外側にも、土を盛り付けて堤防を維持・拡大した様子が昨年の断面調査で観察でき、治水へのたゆまぬ努力が必要だったことを物語っています。

2. 石積み護岸遺構

長さはm

昨年度、上記石積み堤防遺構の下から出土した遺構です。本年度は、石の裏側構造の調査とともに、仁淀川からの湧水によって困難な裾部の調査に努めました。

	石積み護岸遺構	石積み堤防遺構
確認長	250	120
幅	3.5～9.5(残存)	7.0
高さ	2.0～4.3(残存)	4.2
法面傾斜	38～40°	41～45°
石材規模/加工	0.45～1.1 / 原則的に自然石	0.2～0.6 / ハツリ
積み方	野面積み	落し積み
附属施設等	突堤状遺構、平場、石出し状遺構	2時期あり
内部構造	貼り石的部分と裏込めを有する部分あり	大ききの揃った川原石を充填。一部に基礎構造あり
出土遺物	江戸前期か	2次石堤は明治～昭和初期

○本年度の主な成果

- 1) 平場部分の積み石の間から江戸時代前～中期の唐津焼片、舟着状部分の川底から江戸時代前期の陶器碗が出土。
- 2) 下流側の下段部分や、上流側の改修部分は若干の「裏グリ」を持っているが、その他の部分は土を薄く入れた程度で、石材も「貼り石」的な使い方である。その中で、「平場」部分は築石の裏に角礫と川原石を併用した厚さ数10cmの構造を持っており、堅牢な造りとしている。
- 3) 改修部分と、新旧関係が判明。
- 4) 裾部分に特別な構造はみられない。胴木も存在しない。
- 5) 突堤状遺構の内側奥の入り江状部分では、裾に石組みと2本の杭が出土。

○当遺構の特徴と課題

- 1) 江戸時代あるいはそれ以前に確実に遡る河川護岸遺構は、全国でも僅少。
- 2) 「平場」や**突堤状**の部分は同時期の他例がなく、わが国の伝統的治水技術を知る上で重

要。単なる水制機能（護岸本体を水流から守る）だけでなく、舟運との関係等を考える必要あり。

- 3) 上岡北遺跡の堤防遺構（高知県香南市野市町・物部川・江戸時代）と全く異なる構造。県下の石積み遺構のなかでも一定の水準にあり、構築の目的、「何を護ったか」が課題。埋没・廃絶時期は江戸時代中期（18世紀）頃とみられます。野中兼山による吾南平野の開発後、仁淀川水系から高知城下町方面への舟運が、土佐市対岸の新ルートに変わったこととの関連も考えられます。なお、石積み護岸、石積み堤防の両遺構とも今回の調査区外へ続いています。既述の「中堤防」も海岸へ向かって1km以上延びており、治水遺構群の全容は未解明といえます。



石積み堤防遺構の基礎（南より）



石積み護岸遺構（下流側より）



平場および突堤状部分（西より）

5 地点

5地点は本年度行った試掘調査の結果、遺物を含む層が見つかり柱穴の可能性の高い痕跡が確認できました。このため本調査を行うことになりました。建物跡の発見が期待され以前の調査(1-1～1-5区)で確認した中世の村の範囲が広がる可能性が考えられましたが、建物跡は発見できませんでした。しかし、南北方向に調査区を横断するように石を並べた遺構を発見することができました。石の列は2列が並行するように延びており石列と石列の間は約3.4mありました。道路跡の可能性が高いと考えており時期は出土遺物から中世と考えています。以前の調査で確認した中世の集落跡から高岡方面へ続く道路の可能性が考えられます。

また、遺物を含む層からは古代から近世までの遺物が出土しています。特に近世と考えられる遺物では赤漆や黒漆の漆器が9点出土しており、一つの遺跡から出土した量としては県内の調査事例の中でも多いものとなりました。その他では近世の錠前がほぼ完全な状態で出土したことが注目されます。いずれも屋敷跡に関係する遺物ですので調査地区内では建物跡は確認できませんでした。近接した場所に屋敷跡が存在する可能性が高いと考えられます。



道路状遺構



道路状遺構



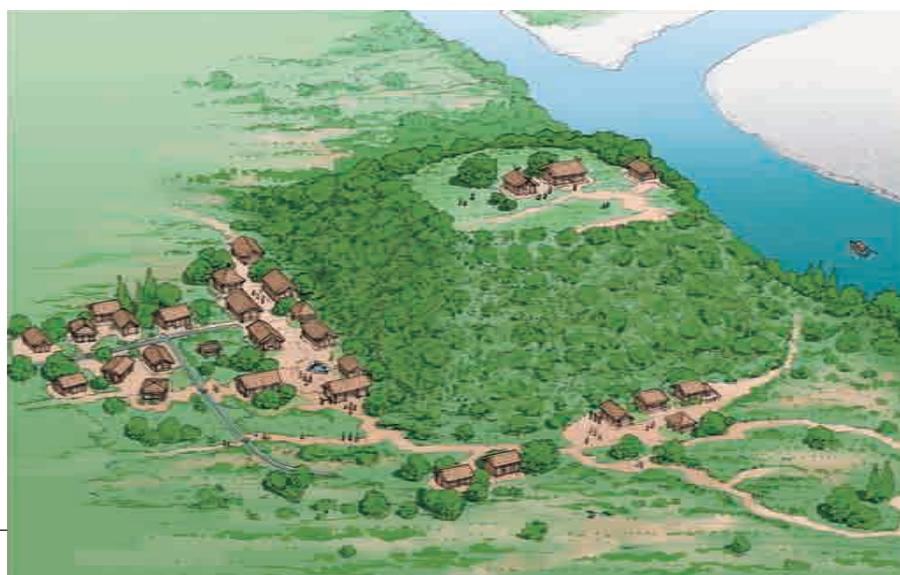
赤漆椀出土状況



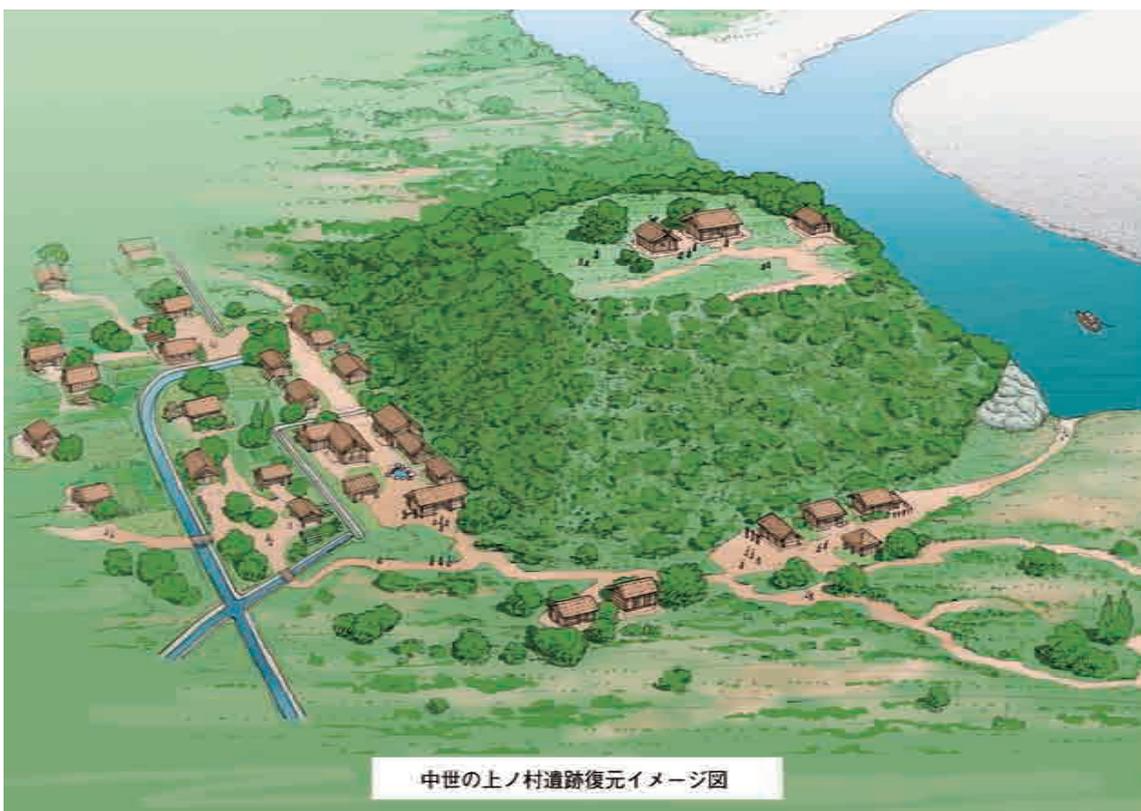
錠前出土状況



平成18年度



平成19年度



中世の上ノ村遺跡復元イメージ図

平成20年度